# PART2 南アジア・東南アジアの民族運動

## Chapter1　インドの民族運動

目標
第一次世界大戦後，インドの民族運動が盛り上がった理由を考えよう。
インド国内の二大派閥と，対立の背景を理解しよう。

### 1　第一次世界大戦後のインドの民族運動

① 1919年**インド統治法**（1919年）
イギリスは，第一次世界大戦中に約束したインド自治を州行政の一部しか認めず。同時に強圧的な**ローラット法**を制定し，民衆の反発を受けた。

②〔　　　　　　　　〕の登場→ 1920年の**国民会議派**大会で**非協力運動**を提示
〔　　　　　〕・**不服従**運動「サティヤーグラハ〔真理の把握〕」を掲げた，インド独立の父。「**マハトマ**〔偉大なる魂〕」の尊称がある。
※ 1922年にインド民衆による警察官殺害事件が発生し，運動はいったん中止に。
※運動方針や宗教的な対立からムスリムは反国民会議派・親イギリス路線に。

ガンディーの塩の行進

## 2　インドの民族運動の発展

①憲政改革調査委員会〔サイモン委員会〕の設置（1927年）

インド人が含まれておらず，民族運動が再燃。

②［　　　　　　　］の登場

1929年，ネルーら国民会議派内の急進派が完全独立〔プールナ＝スワラージ〕を決議。

穏健派のガンディーを呼び戻し, 1930年にイギリスの専売打破のため「**塩の行進**」を実施。

③英印円卓会議（1930～32年）

ロンドンに３回にわたりインドの諸勢力を招集したが，第１回と第３回は国民会議派がボイコットしたうえ，全般的に紛糾して成果は上がらず，民族運動が本格化した。

④ **1935年インド統治法**（1935年）

州政治のみインド人に移譲し，中央の行政・財政・防衛・外交はイギリスが掌握し続けた。

⑤**全インド＝ムスリム連盟**による［　　　　　　　　　　　　］建設目標決議（1940年）

**ジンナー**が指導者として運動を牽引。

ネルー

ジンナー

まとめ

自治を認める約束をイギリスが守らず，インドの民族運動が高揚した。

ヒンドゥー教徒たちの国民会議派とイスラーム教徒たちの全インド＝ムスリム連盟は，宗教上の問題もあり対立を深めた。

# Chapter2　東南アジアの民族運動

目標
アジアで民族運動を指導した人の特徴を考えてみよう。
東南アジアで唯一独立を維持していたタイの変化について知ろう。

## 1　第一次世界大戦後の東南アジア支配地の民族運動

①〔　　　　　　　　　　〕の民族運動

A　〔　　　　　　　　〕が支配＝**蘭印**

B　インドネシア共産党の結成（1920年）
　　アジア初の共産党だが弾圧により壊滅

C　**インドネシア国民党**の結成（1927年）
　　〔　　　　　　　　〕を党首とする
　　※翌年，統一祖国・民族・言語を目指す宣言を行う。

スカルノ

②〔　　　　　　　　　　〕の民族運動

A　〔　　　　　　　　〕が**ベトナム**・カンボジア・ラオスを支配＝**仏印**

B　ベトナム青年革命同志会の結成（1925年）
　　フランス渡航歴のある〔　　　　　　　　　　　　　　〕が中心

C　ベトナム共産党に発展（1930年）
　　同年に**インドシナ共産党**と改称

③〔　　　　　　〕（現在のミャンマー）の民族運動

A　〔　　　　　　　　〕が支配

B　1920年代から民族運動がスタート
　　あ　僧侶による啓蒙運動
　　い　急進的民族主義者たちのタキン党が台頭

④〔　　　　　　　　　　〕の民族運動

A　**スペイン**を破った〔　　　　　　　　〕が支配

B　議会の開設（1907年）

政治面ではフィリピン人への権限移譲が進む

※経済面ではアメリカに大きく依存していたので，農民たちは反乱を繰り返した。

C　アメリカ議会でフィリピン独立法の制定（1934年）

アメリカが10年後の独立を約束

※翌35年に独立準備政府が発足。

## 2　第一次世界大戦後の東南アジア独立維持地域の民族運動

①〔　　　　〕の民族運動

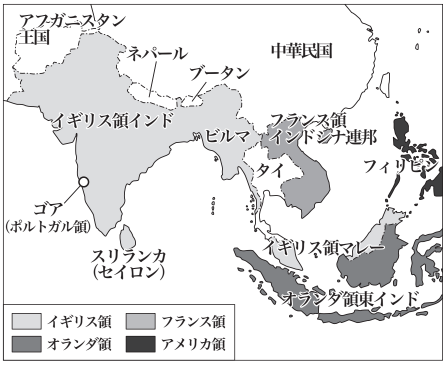
A　**独立を維持**

B　立憲革命（1932年）

専制的な王制から立憲君主制へ

②その他→なし

※シンガポールを含む海峡植民地や**マレー連合州**も**イギリス**の支配を受けていたので，タイだけが独立を維持していた。




第一次世界大戦後の南・東南アジアの地図

まとめ

宗主国へ渡航歴のある人たちが，アジアの民族運動を指導した。

タイでは立憲革命が起こり，専制的な王制から立憲君主制へと移行した。

# 第８講　PART2　確認問題

**1** 1919年，イギリスがインドの反英運動弾圧のために発布した法律はどれか。

① ローラット法　② ベンガル分割令
③ インド統治法　④ ワグナー法

**2** 1920年の国民会議派大会で非協力運動を提示したのはだれか。

① ネルー　② ジンナー
③ ティラク　④ ガンディー

**3** ガンディーの尊称はどれか。

① プールナ＝スワラージ　② サティヤーグラハ
③ アタテュルク　④ マハトマ

**4** 1929年に完全独立を決議した，国民会議派内の急進派の指導者はだれか。

① ガンディー　② ジンナー
③ ネルー　④ ティラク

**5** 1930年代に展開されたインド民族運動と**関係のないもの**はどれか。

① 「塩の行進」の実施　② 全インド＝ムスリム連盟の結成
③ 英印円卓会議の開催　④ 新しいインド統治法の成立

**6** 全インド＝ムスリム連盟を指導し，パキスタン建設運動を牽引したのはだれか。

① ネルー ② ガンディー
③ ティラク ④ ジンナー

**7** 1927年，インドネシアで結成されたインドネシア国民党の党首となったのはだれか。

① ホー＝チ＝ミン ② スハルト
③ スカルノ ④ シハヌーク

**8** 第一次世界大戦後，ベトナムを支配していた国はどこか。

① イギリス ② フランス
③ オランダ ④ アメリカ

**9** ベトナム青年革命同志会の中心となったのはだれか。

① スカルノ ② スハルト
③ シハヌーク ④ ホー＝チ＝ミン

**10** 東南アジアで唯一独立を維持した国はどこか。

① インドネシア ② フィリピン
③ タイ ④ マレー連合州

# 第 8 講　PART2　確認問題 解答

**1** 解答：①　ローラット法では，逮捕状なしに逮捕し，裁判なしに投獄できる権限をインド総督に与えた。

②：1905 年，インド総督がインドの反英闘争の分裂を狙って発布した法令。
③：1919 年，イギリスがインド自治を州行政の一部に認めた法律。
④：1935 年，アメリカでニューディール政策の一環として出された法律。

**2** 解答：④　ガンディーは，非暴力･不服従運動を展開し，インド独立の父と呼ばれる。

①：インドの国民会議派を指導し，ガンディーの継承者として活躍した。
②：全インド＝ムスリム連盟を指導し，のちにパキスタンの初代総督となった。
③：1906 年の国民会議カルカッタ大会でスワラージ要求を掲げた。

**3** 解答：④　マハトマは「偉大なる魂」という意味。

①：1929 年のインド国民会議大会で決議された理念で，「完全独立」という意味。
②：ガンディーが掲げたインド独立運動の理念で，「真理の把握」という意味。
③：トルコ革命を指導したムスタファ＝ケマルに与えられた尊称。

**4** 解答：③　ネルーは，1930 年にはイギリスの専売打破のためガンディーの「塩の行進」に協力した。

①：1920 年の国民会議派大会で非協力運動を提示した。
②：全インド = ムスリム連盟を指導し，のちにパキスタンの初代総督となった。
④：1906 年の国民会議カルカッタ大会でスワラージ要求を掲げた。

**5** 解答：②　全インド = ムスリム連盟が結成されたのは 1906 年。

①：イギリスの専売打破のため，1930 年に実施された。
③：インドの自治に関するロンドンでの会議で，1930 ～ 32 年に開催された。
④：州政治のみインド人に委譲するもので，1935 年に成立した。

**6** 解答：④　ジンナーはのちに初代パキスタン総督となった。

①：国民会議派内の急進派の指導者で，1929 年に完全独立を決議した。
②：1920 年の国民会議派大会で非協力運動を提示した。
③：1906 年の国民会議カルカッタ大会でスワラージ要求を掲げた。

**7** 解答：③　スカルノは，1945 年にインドネシア共和国の独立宣言を発し初代大統領となった。

①：ベトナム独立運動を指導した。
②：オランダからの独立戦争で活躍し，スカルノに代わって大統領に就任した。
④：カンボジアを独立に導いた。

**8 解答：②**　フランスは，ベトナムのほかカンボジア，ラオスも支配していた。

①：ビルマ（現在のミャンマー）を支配していた。
③：インドネシアを支配していた。
④：フィリピンを支配していた。

**9 解答：④**　ホー＝チ＝ミンは「ベトナム建国の父」と呼ばれる。

①：インドネシア国民党の党首で，のちにインドネシア初代大統領に就任した。
②：オランダからの独立戦争で活躍し，スカルノに代わって大統領に就任した。
③：カンボジアを独立に導いた。

**10 解答：③**　タイでは 1932 年に立憲革命が起こり，立憲君主制に移行した。

①：オランダに支配された。
②：スペインを破ったアメリカに支配された。
④：イギリスに支配された。